

ペスタロッチー教育賞 受賞団体紹介

社会福祉法人

似島学園

似島学園は、昭和21年9月、原爆で家族を失った孤児や種々の事情によって浮浪孤児となった児童を收容、保護し、彼らを心身ともに健康で明るく文化的な社会人として育成することを目的として開設された。当時、市内にたむろする子どもたちの惨状を目の当たりにした故森芳麿氏（初代学園長）や故吉川豊氏（第二代学園長）が、広島県や広島市に強く訴えかけ、旧陸軍施設跡地を借り受けて34人の児童を保護したのが始まりである。

戦後の窮迫した状況のなかで、不十分な建物施設の整備、食糧の確保、そして脱げ出す子どもへの保護等、職員の献身的な努力と子どもたちへの愛情によって学園が維持されたことは特筆されるべきことである。園内の整地、農場開墾、地引き網、海水からの製塩、考えられる限りの努力を重ねる学園長ほか職員の姿に、子どもたちも次第に落ち着き、ともに作業に汗するようになっていった。昭和23年、児童養護施設としての認可を受け、当初併設された似島小学校分教場も、昭和25年、広島市立似島学園小・中学校として独立、園内学校として整備されたことにより、児童の福祉、養育と公的な教育を両輪とする一体的特質を有した児童育成施設として成果をあげてきた。昭和27年、社会福祉法人として認可された後、児童養護施設のみならず知的障害児施設（高等養護部、昭和41年）、知的障害者福祉ホーム（のぞみの家、昭和56年）、知的障害者通勤寮（有終寮、昭和57年）、知的障害者グループホーム（ホーム似島、平成10年）を併

設し、児童福祉、障害児教育及び社会福祉を総合的に組み合わせた先駆的な教育・福祉活動を展開している。開園以来の保護児童数はのべ3,100人にのぼり、現在も100人余の児童、青少年が在園している。

学園の活動は、当初の戦災孤児の保護から経済成長時代の裏面で困難な状況に陥った子どもたちの救護、さらに社会や家庭のゆがみ、保護者による虐待に苦しむ子どもたちの養護へ、また知的障害者の自立支援と社会参加をめざす活動へと変遷しているが、子どもたちの一人ひとりを大切に、自発活動と自己向上を支援するという理念は揺らいでいない。学園の園訓「明るく元気に」、指標「働いて考え、考えて働く」、「生活教育（知）と人間教育（情）と労作教育（意）」は、まさにペスタロッチーの教育精神にほかならない。また、今回のペスタロッチー教育賞への推薦が地元住民有志であることも、学園が地域社会に受け入れられ、その成果が評価されていることを示している。開設当初の困難は、シュタンツ孤児院から逃げ出した子どもを捜すペスタロッチーの姿を彷彿とさせるが、シュタンツとの相違はこの点にあるとってよいであろう。

似島学園の歩みは、戦後から現在に至るまで困難な状況におかれた子どもたちに向き合い、揺るぎない信念を持って真摯な実践を積み重ねてきたものである。ここにペスタロッチーの精神と教育の原点が体现されている。似島学園の長年にわたる多大な功績に対し、第11回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。